日本

GDP1次速報予測（2026年7-9月期）

個人消費の弱さが響き、前期比年率+0.4%へ減速と予測

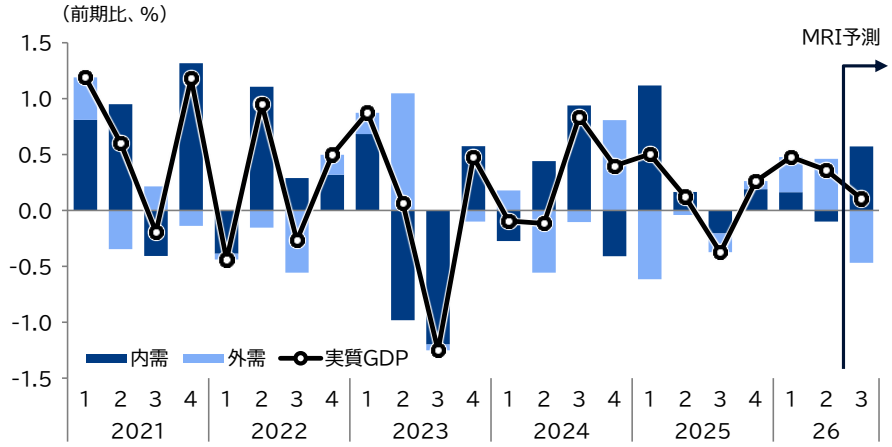
政策・経済センター
田中康就・北川諒・山本道也
03-6858-2717

1 1次速報予測結果

単位：断りがない限り 季調済前期比（%）				2026年		
		7-9月期 実績	10-12月期 実績	1-3月期 実績	4-6月期 実績	7-9月期 予測
実質GDP	季調済前期比年率	▲ 0.4 (▲1.5)	0.3 (1.1)	0.5 (1.9)	0.4 (1.4)	0.1 (0.4)
民間最終消費		0.6	0.2	0.4	0.0	▲ 0.2
民間住宅投資		▲ 7.9	5.0	0.9	▲ 0.6	▲ 0.3
民間企業設備投資		▲ 0.2	1.3	▲ 1.0	▲ 0.9	2.3
民間在庫	寄与度	▲ 0.1	▲ 0.4	▲ 0.1	0.3	0.0
政府最終消費		0.2	0.4	0.4	1.7	0.0
公的固定資本形成		▲ 1.1	▲ 0.5	1.4	▲ 0.5	▲ 3.1
公的在庫	寄与度	0.0	0.0	0.0	▲ 0.5	0.5
財・サービス 輸出		▲ 1.4	0.1	1.7	0.4	1.5
財・サービス 輸入		▲ 0.6	▲ 0.2	0.3	▲ 1.7	4.5
内需	寄与度	▲ 0.2	0.2	0.2	▲ 0.1	0.6
外需	寄与度	▲ 0.2	0.1	0.3	0.5	▲ 0.5
名目GDP	季調済前期比年率	0.3 (1.3)	0.9 (3.7)	0.8 (3.1)	1.3 (5.5)	1.0 (4.0)
GDP デフレータ	前年同期比	3.5	3.4	3.2	2.6	2.8
国内需要 デフレータ	前年同期比	2.8	2.6	2.4	3.0	3.6

出所：実績は内閣府「国民経済計算」、予測は三菱総合研究所

2 実質GDP成長率



出所：実績は内閣府「国民経済計算」、予測は三菱総合研究所

評価ポイント

2026年7-9月期GDPの予測結果

- 2026年7-9月期の実質GDPは、季調済前期比+0.1%（年率+0.4%）と、4-6月期（前期比+0.4%、年率+1.4%）からの減速を予測する（図表1、2）。個人消費が弱く、小幅のプラス成長にとどまるだろう。
- 民間最終消費は、季調済前期比▲0.2%と予測する。自動車やエアコンなどの一過性の需要押し上げ効果の剥落から耐久財消費が減少するだろう。また、夏場の長雨や台風がサービス消費の重石となったとみる。
- 一方、企業設備投資は、同+2.3%と予測する。前期の下振れ要因（特許権の海外譲渡）の反動により押し上げられている側面はあるものの、趨勢的に堅調な伸びを示すだろう。背景として、AI関連需要の拡大や供給網強靭化の必要性の高まりがある。
- 輸出は、同+1.5%と予測する。AI関連需要の拡大を背景に、半導体製造装置などの輸出が増加したとみる。中東向け輸出の回復も押し上げ要因とみる。
- 輸入は、代替調達先の確保によって原油輸入が前年並みの水準まで回復したことを受け、同+4.5%と高めの伸びを予測する。
- 輸出よりも輸入の増加幅が大きく、外需（純輸出）は季調済前期比寄与度▲0.5%ptと予測する。もっとも、原油輸入量の確保により国家石油備蓄の放出が抑えられたことから、公的在庫変動は同+0.5%ptとなり、実質GDP成長率への影響は概ね相殺されるだろう。

先行きの見通し

- 先行きについて、エネルギー・資源価格高騰が波及し、国内物価の上昇ペースが高まることから、26年10-12月期も0%近傍の成長率となる見通し。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.